

明治23年8月神戸市に生れ、四高を経て大正6年東京帝国大学農科大学農学科を卒業し、直ちに当時着工していた明治神宮の造営に従事した。大正9年6月宮内省の庭苑係に轉じたが、大正13年6月都市計画兵庫県地方委員会技師となり、兵庫県下の神戸、西宮、尼崎、姫路等多くの都市の公園計画の立案に専念した。昭和9年大屋靈城技師急逝の後大阪府に轉じ、都市計画の技師として府下の公園計画及び公園建設、管理に活躍し、昭和16年勅任官待遇となって退官した。その後直ちに大阪市公園課長（後に緑地課長）に迎えられ、昭和20年終戦と共に退職した。23年には再び三重県上野市の工務部長に迎えられ、上野市の都市計画、一般建設業務に携わり、昭和28年まで勤務した。晩年は大阪府企業局、奈良市、上野市、岬町などの顧問あるいは嘱託を勤め、また大阪府公園協会の理事として協会の基礎を堅め、一方大阪府、奈良県、三重県の都市計画地方審議会並びに奈良県風致審議会の委員をも勤める傍



ら、三重高等農林学校、大阪府立大学農学部において都市計画論を講ずると共に大阪成蹊女子短大等の講師として後輩を育成した。

彼は、東大原熙博士の門下生として、日本造園のルネッサンスと称せられる明治神宮の造営において造園の実務に携わり、また宮内省においては、霞ヶ関、伊香保、桂など離宮御用邸の改良並びに管理に従事して、造園の実務を習得しており、その後は兵庫県、大阪府において、多くの都市の公園の計画に従事したが、その公園の実現に大いに努力され、特に兵庫県営明石公園の大拡張工事、舞子公園の改良、大阪府営枚岡、箕面、住江等の公園の整備、また大阪市にあっては長居、鶴見緑地の計画とその用地買収等を行ない、計画を実地経験によって生かしたのである。特に岸和田市の公園墓地の設計は関西における最初の公園墓地であり、大阪府営山田公園のゴルフ場開場等は先見の明を示すものであった。また上野市の芭蕉翁の史跡顕彰等多くの功績を残した。彼は都市計画初期時代の有力なる技術者であると共に、大正末期から43年4月逝去まで阪神地方における造園の指導者として、その温顔と共に多くの人に親しまれた。